



海洋科学科5月期キャリアトライアル 「ことばの力」トライアル



＜鈴木 真治＞

実習が始まる前までは不安の方が大きかった。「自分は何ができるのだろう。」「班長としてみんなをまとめていけるのか。」などと思っていた。逆に集中実習でしか学べないこともあると思い、楽しみでもあった。そうした中で実習が終わって振り返ってみると、班のみんなに支えられ、そして良い点や悪い点が見つかって、とてもいい集中実習になったと思う。

様々学んだ中から、特に重要だと思った2点について述べる。1点目は自分から動くということだ。やはり最初は自分の班のことで精一杯だった。でも、自分の班が落ち着き、作業にも慣れ、気持ちも落ち着くと、「他の班がまだ終わっていないようだし、何かできることはないのか。」と気遣えるようになった。そうした気持ちになれたのは先生の一言にあったと思う。その一言で自分を成長させようと思った。2点目はメモを取る力がついたと思う。ただ書くだけなら簡単だが、自分の中で大事なことだけ選んでメモを取るのには難しい。特に、大学での講義中にメモを取るのには難しかったが、大学進学後はこのような講義形式が多いので必要なことだなと感じ、自分なりにメモを取ることができた。この実習

で学んだことは今後の進路や学校生活などにも活かすことができる。何事に対しても自ら動いたり、そういう前向きな姿勢で生活していきたいと思う。



＜田城 信康＞

私は集中実習の事前説明を聞いた時、1年の水産基礎実習と変わらないと思った。しかし3日間を終えてみると先輩たちの言うとおり、反省点やこれからの課題がわかった。

初日の海洋観測では、乗船して観測すると、エンジン音で普段通りの声では相手に通じず、揺れで観測がしにくく、1か所の観測ポイントで時間をかけてしまった。移動中は寝てしまい、降船後先生にその寝ていた時間で他班との引き継ぎや観測で得た経験を話せたはずだと指摘され、時間を無駄に消費していたと感じた。そして2日目は、時間を有効に使えて多くの観測をすることができた。最終日の京都学園大学での講義では、食品の機能性や下水処理では微生物が分解していること等、将来水産の研究に役立つものばかりだった。

私は大学進学後、養殖の研究をしたいと思っている。今回の実習で得た海洋観測の技術は養殖場所を特定するのに役立つし、大学の講義で得た知識は魚に与える餌が水質や海の環境に与える影響を知ることができる。この3日間を終えて、そう思った。

＜龍川 桃子＞

今回の集中実習の内容は、一年の時にも行ったことのある内容だったので、気楽に臨んだ。しかし、一日が終わる度に反省点ばかりが浮かび、集中実習の厳しさを身に持って体験することになった。

一年の実習と比べて大きく違うのは、自力で進めなければならないという点だった。一年の時は先生が1から10まで付いてくれたが、今回の集中実習では、説明を聞き、理解をして一人または班員と協力しながら、すべて生徒達で進めた。その中で、班員とのコミュニケーションが上手くとれない、という課題点を見つけた。しかし、海洋観測や操舵を通じて、人に教えることでコミュニケーション能力を身につける事ができたと思う。

また、トリガイ貝殻の殻毛除去作業では、先生から海洋科学科の研究の歴史を聞いてから作業にとりかかった。先輩方が積み上げてこられた努力を目の当たりにし、研究を引き継ぎ、これからさらに頑張ろうという気持ちが強まった。

大学見学では、今まで自分の知ることのなかった世界を覗き、新たな興味が湧き上がり、将来の選択についての視野も広がった。

見学を含め、3日間の集中実習では、自分の行動に責任を持つこと、私語をしないこと、海洋科学科としての自覚を持つことをよく注意された。自分で見つけた課題点を含め、注意されたこともこれから改善していき、更に上のレベルを目指していきたいと思う。

私は将来について悩むことが多かったが、この実習を通して自分自身に自信が付いてきたし、どのような道に進むにしても、今回分かった反省点を無くすことや、身に付けたコミュニケーション能力を武器にして、自分の目指す第一進路を勝ち取りたいと思う。

